

## 参考【資料1】

### 飯南町教育環境基本方針（案） 住民説明会 1.18 来島交流センター

#### 1 教育長あいさつ

なるべく皆さんが参加しやすいように、時間帯的に平日の夜と、休日の午後からの2回にわけて説明会を実施。

令和4年度、令和5年度に分けて（案）を議論してきた。そういう意味ではかなり峠を越えて仕上がっている。細部にわたって微調整をして、今一度住民の皆様説明を行い最後の総仕上げをしていく段階にある。後ほど詳しく説明するが、検討委員の皆様には誠心誠意、意見交換をしていただき、向き合っていたいた。

今日と次回の意見を受けて、2月21日に作野委員長より私のほうに答申が出される。これを受けて令和6年度はタイムスケジュール等の具体的な計画をたてていくので引き続きご意見をいただきたい。

#### 2 飯南町教育環境基本方針答申（案）について

（配布資料をもとに石飛次長より説明）

#### 3 質疑応答

まずは保護者からの意見

（頓原：■■■■）

子どもが頓原小4年、頓原中1年、飯南高校2年。

今日の説明会は中学校を統合するから場所をどうするかという説明会なのか。

最後に追加で説明があったが、結局、中学校の統合は決定なのか。

（教育長）

資料8ページ上の図にあるように、中学校はこの方針のなかで「学校集団のなかで」という理念と、再編を検討する場合は地域の実情・施設の状況を十分配慮して検討することにしてきた。その状態で住民説明を4か所行ったが、小学校については意見が多かったが、中学校についての意見がでなかった。それがなぜかと検討委員で考えたとき、最終的には中学校の方針は再編の案が出ているため、場所の問題が大きい問題なのではないかとなった。具体的にどうするのかは答申を受けたのち、来年度以降、町長や私等で具体的にどうするかということを決めていくのだが、今回の答申案のなかに、あえて中学校の方向をお示したほう

## 参考【資料1】

がよいということを示した。なお、その表現について、委員のなかでも様々な意見があるが、今の時点では中学校の統合について具体的なことは決まっていない。方向性を示したのみ。

(頓原：■)

これから話をしたうえで、統合するか、統合しないとなる。

子どもがバレー部だが、人数が少なく1校ではできない。野球も同様。赤中と一緒にいるが、3月いっぱいまで合同をなくし、4月以降は合同でやるか再検討となっている、保護者として、学校の授業に関しては少人数で問題ないが、部活動に関しては少人数だとできることが限られる。統合が進められないのならば、第一歩として部活動だけでも合同でできる体制を進めてほしい。

(教育長)

中学校をどうしようか？となったときに部活動の問題は、中学校の少人数の場合の大きな課題であるという意見が委員から出ている。今後の判断材料の一つになるだろう。それも含めて総合的に判断していく。

(頓原：■)

頓原小4年、飯南高校1年に子どもがいる。

今後統合したとして、保護者が一番気になるのは家から遠くなること。スクールバスがすごく大事になると思う。そのあたりは町として考えてもらえるのか

(教育長)

飯南町の通学方法の基本は小学生は徒歩、中学生は自転車である。資料9ページにあるが、国が示す基準は飯南町には当てはまらないので、今でもすでにスクールバスが走っている。今の答申案では小学校は基本的に残していくが中学校はどうしていくか。安全な通学、時間がどれくらいかかるかを保護者の方は心配しておられる。来年度以降の計画の策定にあたり、スクールバスの路線を再編した際にどれくらい時間がかかるのかをシミュレーションし、それらの情報をもとに計画をたてていく。それらは大切な判断材料となるだろう。

(志々：■)

小学2年生と保育所に子どもがいる。

7ページの下の方。教頭担任が一定期間続く場合は、再編を検討するとすると記載されているが、志々小は令和8年度から教頭担任になる可能性がある。“一定期間”は具体的にどのくらいの期間なのか。

## 参考【資料1】

(教育長)

まず7ページについて、基準として全校児童15人となると教職員が減らされて、教頭担任となり、学校運営が苦しくなる。志々小学校はちょうど、ボーダーで頑張っておられるというイメージ。しかし人数が少なければ課題もあるが、良さもある。コミュニティ・スクールの推進を進めているが、地域とともに子どもを育てていくというメッセージが答申案には示されている。志々地区は特に地域に力がある。そこでは定住対策も進んでいる。4ページの数字は推計だが、今後子育て世代が今後転入してくればこの数字は増える。地域の協力もいただいて15人以上を維持するというのが答申案のひとつの目標。このデータは今の住民基本台帳から出しているため、定住による期待値は反映されていない。人数を確保しながら頑張る方針。「一定期間」という文言は曖昧だが、期待値も込めての表現のため、町、地域が力をあわせて子どもを増やしていこうというメッセージ。定住対策に協力していただきたい。

正月の新聞で、学校再編についての現状が大きく掲載された。人数が少ないから統合する方針を出した市町村もあるが、人数は少ないが頑張っていこうという市町村もある。飯南町は後者のほうで答申案を出されようとしている。小学校に関しては、地域の皆様と一緒に存続していくという答申案だと認識している。

出席者全体からの意見

(頓原：■■■■)

町の本気度を伺いたい。

答申が出ると、それに向かって考えると思うが、スクールバスを充実しないと保護者が黙っていない。安全と保護者の負担。子どもも遠くなってしまおうと寝てしまう。中学校になり遠くなると、1日の負担が多くなる。そうなるときめ細やかな運行が大切になる。運行する側からすると今ですら運転手の確保が難しい。

この辺を見越しての検討をしなければならない。

一定期間様子を見てとあるが、それを維持するとして小規模校、特に志々小学校は施設がダメになる。少人数でもこの答申に沿って頑張るなら、町の足腰が大丈夫か。

(教育長)

スクールバスについて、どういう運行をしたらよいかシミュレーションをしっかりとしていきたい。バスを何台増やす必要があるのか。経費はどれくらいかかるか。これらを判断材料として皆様に説明し納得していただきたいと考えている。

小規模の学校の維持については、学校の耐震・安全性を懸念される声もあった。耐震調査などを令和6年度予算に要求中である。それらを総合的に考えていく必要がある。

## 参考【資料1】

(頓原：■■■)

かなりの本気度だと認識した。

今でも満足しているが、こんなに真剣に考えていただけることをありがたく思っている。

(飯南高校生：■■■)

4つの小学校と2つの中学校が統合するということで、統合することに関して、いきなり統合は難しいと思う。学生なので財政面はわからないが、統合するとなると配置やスクールバスの問題が発生する。

人間関係の面では、4地域から集まると学生同士でグループができたり、教職員の負担も大きくなるのではないかと思った。もし統合するのなら小学校の時点から他地域の児童と交流を深めておく。準備や対策をすればよいと学生目線で思った。

(教育長)

令和6年度以降方針を受けて、町教委や町で具体計画を立てていく。判断材料を見極めていくが、いきなり来年から統合というのはない。当然計画を立て合意形成を図りながら進めていきたい。

人間関係の問題は当然あると思う。本物の答申(案)の13ページにおいて、人間関係に気を付けながら…ということで記載されている。事前に交流してははどうかと提案があったが、現在も小・中・高校の交流は行っているので、さらに一層強化していく必要がある。子どもたちの人間関係は特に気を付けながら慎重に進める必要があると思っている。

(飯南高校生：■■■)

部活動について、中学校は合同だと聞いているが、一緒に練習できるのが平日だけなので難しい。大会があると一緒に練習できる回数が少ないと難しいが、今後中学校が統合されれば、練習に行くための時間も省くことができるうえに平日も一緒に練習できる。中学校統合はいいと思う。

(教育長)

答申案のなかで中学校については再編を検討するとあるが、中学校は学校集団で育てようというイメージ。そのなかの一つが部活動や人間関係だろうと思っている。中学校再編の大切な要素になってくる。しかし、再編によるデメリットや心配もある。これまで様々な意見を聞いてきたが、そこも含めて総合的に判断していく。

部活動はチームで出る、その方が良いというのは大きなメリットだと思っている。ひとつの判断材料だろうと思う。

(頓原：伊藤委員)

## 参考【資料1】

私は検討委員として参加している。

検討委員会のなかでは小中学校すべて現状維持、存続という意見を持って参加している。委員会に参加し、作野委員長が宣言に近い形で言われたが、「統廃合の問題は避けては通れない。そのことについてまちづくり全体で考えなければならない。大きな視点で捉えなければ、このご時世では簡単に解決できない。」まちづくりの視点というのは、答申案の中ほどの程度盛り込まれていくのかと思っている。

今後の人口減少は避けられない社会情勢がある。そのなかで統廃合を進めるということに対して、中学校がなくなるとこの町に残る人がいなくなることを心配し、残した方が良いという意見を伝えた。この町にあったものがなくなると、このまちに未来を感じる事が出来なくなるのではないかと。親としても最後に帰ってきてほしいと伝えづらくなるのではないかと。これは、まちが残れば子どもたちに不利益が被るという意見を無視しているということではない。学業の面について、小規模校であることが不利益ではないということであった。

人口減少が進むなかでU I ターンが重要になるがそれが減少することは、一体だれが将来苦しむのか。それは子どもたちであると思う。介護や医療のサービスを十分に受けられなくなるだろう。元の家、土地、両親がいるまちが衰退したとき、一番苦勞をかけたくないはずの子どもたちの世代に負担を掛ける可能性がある。U I ターンの減少を非常に懸念している。議論に巻き込みたいわけではなく、答申案に対する反対意見がでないため、反対意見を持っている人がいるという表明と厚く思っていたきたい。

(教育長)

伊藤委員には、これまでも熱心に参加していただき感謝している。今述べられた考えを終始一貫、主張しておられた。これまでの検討委員会では、現状維持でもよいという意見も聞いたが、もっと大胆に1校ずつでもいいという意見もあった。この問題は賛否両論あると思っている。最終的には答申案を受けて町として判断し決断するが、そのためにも、いろんな意見を聞き話し合いをしていきたい。

(赤名：■■■■)

説明会を受け集約されたはずが、今回出た答申案へは、変更箇所が2行しか反映されていないのはいかがなものか。

8ページ。町の公のものに対して、わざわざ住みたいまちランキングが書かれているが書かなくてもよいのではないかと。書くことでどういったメリットがあるのか説明してほしい。切れ目のない支援とあるが、娘が言うには中学校は1割近くが授業不参加、不登校と聞いているが、この言葉とは解離している。答申案であればこういったところをきめ細やかに表現を付け足して、今後飯南町としてどうやっていけばよいのか。新聞に乗った件もありながらそこには触れていない。くさいところには蓋をした感じもある。親としては信じられない。

## 参考【資料1】

心配である

(教育長)

住民説明で意見を聞き検討委員会を開いたが、検討委員の皆様の中で中学校の場所にふれるべきであるとなり2行追加された。そのほかについては大きな変更意見はなかったと思っている。

住みたいまちランキングをのせる意味について、教育環境基本方針の根底は人口減少対策、少子化対策が前提とされている。そういった意味では記述することに意義がある。

学校に足が向かない子どもさんが増えているのは間違いない。令和6年度に向けて学校の支援体制に加えて、学校外での支援体制強化の検討を進めている

(赤名：■■■■)

検討をすすめていると言われるが、ここに書かなければ意味がない。

ランキング自体がどういうことを中心してかかれたのか分からない。不確定要素を書き加えることがいかななものかと思っている。

答申案に引っ張られて、生の意見が反映されていないことを危惧している。委員会の方々がすべてではないことを分かっていたきたい。

(教育長)

答申案について、住民や保護者の意見を1から10まで拾いきれてない部分もあるかもしれないが、答申を受け止め、今後策定する計画の段階では詳細なものを作っていきたい。

(頓原：■■■■)

今後の計画策定があると思うが、具体的に話し合いをどれくらいを目途で(案)を決めてそれくらいの年数で統合を決めていくのか見えてこない。資料には5年後になると人数が少なくなるという数字は出ているが、数字に対してそれまでにどうするのが見えてこない。2年間意見を集めてきた結果がはっきり示されていない。これから具体的に決められると思うがスローペースとを感じる。前回も今回も、この出席人数で良いのかと思う。アンケートは意味がないということで集約して行われている。

具体的な年数や計画を決めたうえで住民に意見を聞き検討するほうが良いと思う。

(教育長)

基本方針はぼんやりとした雰囲気に見えるかもしれない。今後の教育をどうすべきかという観点で理想論が書いてある。これを受け、何年後に学校をどうするのか基本計画を策定する。判断材料としてスクールバスや人数のことなどの資料を示し、そこでは激しい議論になると想像している。令和6年以降の計画を立てる過程でしっかりと説明し、合理形成を図る

## 参考【資料1】

ことは大変な作業だと想像している。

今回も説明会の案内はダイレクトメールで保育所～中学校の保護者へ案内したが集まりが悪いことは残念である。表現がぼんやりしているため議論に拍車がかからないかと思っている。基本計画で明確な表現がでてくると保護者の方、地域の方の目つきも変わるのではないか。そうなると合意形成はさらに難しいのではないかと思っている。

(来島： ████████)

今後の基本計画のタイミングに入った際に、どういう流れでどういうメンバーで決まってくるのか。基本方針は住民さんの意見を説明会で聞くことができるが、様々なことが明確となる基本計画のメンバーや流れについて教えてほしい。

(教育長)

今後の流れについて、令和6年2月21日に答申案が出される。それを受け教育委員会、町議会に報告し、これに基づいて計画を立てる。計画策定は、委員の皆様を集めるのではなく町の執行部として計画を立て、(案)ができた段階で説明会を行っていく。執行部として計画を立て根拠を示しながら、きめ細かに住民、保護者の皆様へ説明するという手順となる。

(来島： ████████)

計画に入ると執行部で計画を立て説明を行うということは、町民の意見は説明会のタイミングしかない。住民の意見は計画に反映していくと思うが、今後の基本計画作成の際には極力住民の意見を聞き入れる機会を作っていただきたいのでお願いしたい。

## 参考【資料1】

### 飯南町教育環境基本方針（案） 住民説明会 1. 20 みせん

15:00 開会

#### 1 教育長あいさつ

一昨日 1/18 来島会場で実施。今回は休みの日に設定した。休みの中、足元の悪い中、お出かけいただいた。

（令和6年能登半島地震への追悼、町の対応等について説明）

本答申はこれまでの8回の検討委員会や学校視察を実施し、大詰めとなった。令和4年度、令和5年度に分けて（案）を仕上げていく。後ほど詳しく説明するが、いろいろなご意見をいただきたい。

#### 2 飯南町教育環境基本方針について・・・資料に基づき石飛次長より説明

#### 3 質疑応答

（頓原：■■■■）

中学校統合することになれば、教育委員会として場所は考えているのか。どちらか残すのか？新しいものを建てるのか？

（教育長）

ある程度、場所を盛り込んだ答申だが、現状は白紙の状態。施設面、通学面等いろいろなことを考慮して決めていきたい。

（頓原：■■■■）

統合は何年後を目指しているのか？

（教育長）

児童・生徒数の推移など様々な要素を見ながら決めていきたい。また集団の部活動維持が困難な状況も考えていかないといけない。中学校は学校集団で育てるという理念でやっているとすると、人数がある程度必要という考えもあるし、そうでない意見もある。令和6年度からの計画策定が大事になってくると思います。

（頓原：■■■■）

仮に中学校を建てるとなった場合の、町の財政状況はどうなのか？

## 参考【資料1】

(教育長)

新しい学校を建てるとなると財政負担は当然出てくる。国の補助金や交付税措置等もあるので、全額負担ではないが、起債はすることになる。現状維持か、新築なのか、既存の学校を使うのか、それぞれ比較検討して、財政の面からもしっかりと計画していきたい。

(頓原：■)

2点ほどあります。1点目です。赤中と頓中と部活面で振り回されているのは頓中だと思う。人数が頓中は少ないので、他校との合同の有無が毎年問題になる。文化部（吹奏楽部）でもある。頓原の方が困っている感じがする。何年後かを見据えてとあるが、その間ずっと不利になるのは子どもたちになる。

2点目です。中高一貫教育の中で場所についての話をされる中で、保小中高一貫教育の良さが見られなくなっている。一貫教育の良さを教えてほしい。

(教育長)

計画については6年度から計画策定に入る。来年度の今頃には計画をきちんと説明することになる想定。そのタイミングではスケジュール感や場所なども提示することになるので、住民の皆さんの意見も出やすくなると思う。

ふるさとに愛着や誇りを感じてほしいという願いから、飯南町の特徴としては保育所も含めてキャリアパスポートで身につけたい資質能力を示している。たとえ話だが、大学入試の推薦でプレゼンを活用する機会が増えてきているが、飯南高校生のプレゼン能力は高いと評価されている。これは一貫教育の積み上げがあることも理由だと思う。進路実現にもつながっている。なお、一貫教育をしているからいわゆる「学力」が低いということはちょっと別の話だと思う。

今日は校長や飯南高校生も来ているので実体験を話してもらいたい。

(頓原小：足立校長)

保小中高一貫教育のよさで感じるのは、連携が取れていること。月に1度中学校、高校で情報交換している。高校の学園祭やジョブフェア、ふるさとシンポジウム等、普段から高校生と接する機会が多く、中学生にとって身近なお手本に高校生がなっている。小中連携も合同で行っている。小学生にとっては、中学生がよいモデルになっている。教員同士のつながりも他市町に比べるとつながる機会が多い。情報交換がしやすいことは大きなメリットです。

(飯南高校：■)

まずは、小学校4校を残すことに賛成します。志々小出身なのですが、ロードレース、読み聞かせ、田植え、稲刈り地域の人に見守られながら色々な活動ができた。小学校15人前後の規模から、中学校で100人規模となると人間関係や変化に躓く子もいると思います。今

## 参考【資料1】

も行われている他の小学校との合同授業を増やしていけばいいと思います。  
施設の面では、志々小は校舎の老朽化が進んでいて、不便な生活になっている。対策をしていただきたい。中学校を統合した際の通学面が心配です。スクールバスの少なさや通学時間の長さは心配な点です。

(教育長)

志々小の校舎の老朽化、安全性については、令和6年度の予算で志々小の耐震についてきちんと調査したいと考えている。通学面についても、スクールバスの運行シミュレーションをすることで、不便になったりすることのないように検討していきたい。

(飯南高校：■■■■)

高校生から見ると、保小中高一貫教育は高校生にとって、中学生や小学生と触れ合う貴重な機会となっている。ふるさとシンポジウムに参加した際に、小学生、中学生、高校生が一堂に集まって、それぞれの立場の考えを聞くことが出来て、とても刺激になった。一貫教育の良さだと思います。

極小規模校になって、教員数や生徒数に他校と差がありますが、教育の面で差が出ないのでしょうか。

(教育長)

極小規模校となり、教頭担任となった場合や、教頭不在校となった場合は、教育の面では差が出ないが、学校の運営の面では支障が出る可能性がある。その状態がいつまでも続くことは避けたいので、その場合は統合を検討するという答申案が示されている。

志々は人数が少ない(ボーダー)状況にあるが、町も地域も一緒になって定住やまちづくりに取り組んでいる。

元日の新聞を見ると、県下で学校統合が進んでいる。奥出雲のように思い切って統合を進める町もあるが、益田市真砂地区や出雲市伊野地区のように、統合しないと決めた地域もある。飯南町は後者を目指す答申案が出ていると認識している。

(飯南高校：■■■■)

飯南町出身でないが、高校に入って中学生や小学生と活動があり、驚くとともに刺激を受けた。それぞれ刺激をもらう機会になっている。この活動を増やしてもいいと思う。

(飯南高校：■■■■)

埼玉県出身です。飯南高校に入って感じたことは、地域の人と関わること多いこと。飯南高校に入ってよかったと思っている。地域住民と関わることで関わる力が身に付き、それが子どもにとっては大きな力になる。地域の人と積極的に関わる教育＝飯南町の魅力ある教育

## 参考【資料1】

になるのではないかと。

(教育長)

コミュニティ・スクール(学校運営協議会)制度を現在導入している。頓原でいえば公民館や色々な人と一緒に連携して、地域で子どもを育てていくことを推進している。コミュニティ・スクールを推進し、さらに地域と関わる取り組みを進めていきたい。

(頓原：■■■■)

高校生がこういう場に来てくれることは嬉しい。中学校の進路指導で難しい面もあるかもしれないが、子ども自身が自分の可能性を最大限に引き出せる教育をしていただきたい。

(頓原：■■■■)

県内で義務教育学校が進んでいるが、検討委員会でそういう意見が出ているか。

(教育長)

県内では先行事例として西ノ島ではすでに小中一貫校が設置されているし、川本町では検討が進んでいると聞く。将来的な検討課題として答申案の最後に記載されている。

(角井：■■■■)

中高一貫教育や地域を知る教育だけでなく、そのほかの一貫(学力を高める)も必要ではないか。教育委員会や教員はどのように思っているのか。

(石飛次長)

大学入学がゴールだった時代ではなくなっている。いわゆる学力を高めることは大切だが、一貫教育のなかでは、学力を高めていくのは当然で、そのうえで、社会に出てから必要になる力を高めることを意識している。情報共有もしっかりと行っている。

支援の必要な子どもも増えてきているが、保育所のあるところからのその子にあった支援体制を整えることについても、一貫教育はメリットが大きい。

(角井：■■■■)

どこの市町村でもやっていることに、飯南町として+αの教育の魅力も取り組んでほしい

(頓原：■■■■)

委員として参加している。委員会で本来は発言すべきだが、統合反対派の意見が出ないので伝えさせていただきたい。私は小中どちらも現状維持という考えを持っている。

委員会で委員長が「町全体のあり方と学校のあり方を両方考えていくことが必要。小規模だ

## 参考【資料1】

から学力がつかないということはない。」と言われた。

人口減少は避けられない。このまま人口減少が進むと、町のあらゆる場所で人手不足等の問題がでる。このままの現状だと医療や介護で今の子どもが苦勞する。

あったものがなくなった地域に子どもは将来戻ってくるのか。少しでもUIターンが増えるためには、今のままでいい。学校がなくなった地域に本当に子どもを帰ってこさせるのか。余計に子どもたちに迷惑をかけてしまう。

(教育長)

伊藤委員には検討委員会でも熱心に意見をいただいている。答申を受けて、大きな決断をしていくことになる。部活、通学時間、教育全般、一つ一つを検証しながら計画を作っていく。計画で具体例や学校名等が出てくると、賛成、反対など様々な意見が出てくるのが予想される。しっかりと説明をしていきたい。

(頓原：■■■)

高校生の意見を町の教育行政に反映させてほしい。自分たちが意見を言ったことを具体化されると高校生は良かったと思えるはず。

学力のことは答申に多く記載してある。個人的には、人数が多いほど多様な価値観にふれることができるというメリットもあることを考慮してもらいたい。

(教育長)

保小中高一貫教育のイメージについて、資料を用いて説明

(頓原：■■■)

昨年度、飯南高校卒業して思うことをお話しします。小学校はこのまま4校、中学校は統合したほうがよいと思います。何故なら、自分も部活動で人数が少なくて苦勞したからです。中学校の統合を進めることになれば、生徒の声をしっかりと聞いてほしい。大人の意見だけでなく、子どもたちの意見も聞きながら決めてほしい。

(大谷教育長)

しっかりと様々な立場の方の声を聞いていきたい。住民説明会に参加される方が少ないのが現状。今の意見を聞いて、来年度上半期を使ってこの答申を学校で考えてもらう機会を作るなどしていきたい。校長会にも相談してみたい。

## 参考【資料1】

(来島：■■■■)

素朴な疑問ですが、答申案での小学校現状維持 中学校統合のかたちが計画段階で変わる可能性があるか。

(教育長)

2月21日に答申を受け取る。この答申をもとに、計画を立てていく。計画策定には時間がかかる。計画は案の段階で、住民の皆さんにしっかりと説明していくことが必要。これから作る計画が答申と180度違うというようなことがないように責任感をもって考えていきたい。もちろん財政面など考慮することがあるので、現時点で必ず答申どおりになるとはい切れませんが。

(頓原：■■■■)

この説明会の位置づけは？意見聴取したものをどうするのか。検討委員会はあと1回しかない。拙速ではないでしょうか。委員会の中身を公表できないこともあるとは思いますが、議事録は公開するか？

(教育長)

議事録については、今度の検討委員会で意見集約して委員の皆さんに検討してもらいたい。

(頓原：■■■■)

中学校の方向性案について、検討委員会で「委員長一任」とした。そうであれば、今日も委員長が説明すべきではないか。なぜ出席されないのか。説明責任として少し不足しているのではないか。

(教育長)

意見として委員長に伝えるとともに、次回の検討委員会で協議する。

(飯南高校：■■■■)

作野先生が委員長になった理由は？

(教育長)

島根大学教育学部の教授で学校教育に詳しいことに加え、飯南町のまちづくり等についてこれまで意見をいただいている経緯も勘案して委員長を依頼した。

## 参考【資料1】

(頓原：■■■■)

改めて今後のスケジュールを皆さんに説明していただけないでしょうか。

(教育長)

今、教育環境基本方針（答申案）の説明会をしています。

今後、令和6年度に基本計画を策定します。場合によっては令和7年度に入る可能性もありますが。そして実施計画の3段階のステップを踏んでいく。丁寧に準備していく必要がある。

(赤名：■■■■)

前回の検討委員会で出た今後の教育や教育の現状（不登校1割）、どちらも衝撃を受けた。部活もできない現状であれば、なるべく早く解消できるとよい。中1ギャップ解消に向けた取り組みを小学生のころからお願いしたい。保護者の理解、住民も教育に関心をもたないといけない。住民が子どもたちを見守っていく風土を醸成していかないといけない。

4校の交流を増やしていき、子どもたちが人間関係をしっかりと築いていきやすい環境を整えていただきたい。

(教育長)

保・小・中・高での児童、生徒の引継ぎをしっかりと行っていく。

本答申は単純に学校をどうするかではなく、定住や子育て施策、まちづくり等あらゆる分野からも考えて、今後の飯南町の教育環境をどうするかで答申が出されると思うので、真摯に受け止めて今後の計画策定を進めたい。

## 4 その他

今後の連絡

アンケートについて

閉会あいさつ（石飛次長）